

市民が主役のまちづくりを 布目ゆきお 市政直行便

2008年1月 NO. 16

【編集・発行】市議会「市民ネット」
長野市議会議員・布目裕喜雄

〒380-0961 長野市安茂里小市1-4-10
自宅電話 227-3537 FAX 227-3897
ホームページアドレス
<http://www.ne.jp/asahi/nagano/nunome>
E-mail: vj6y-nnm@asahi-net.or.jp

暮らしに希望がつながる安らかな年に

2008年、皆さんには健やかに新しい年を迎えられたこととお慶び申し上げます。今年の年賀状には、こう記しました。『当たり前のことだけれど、「偽」と「嘘」がなく、「真」と「信」を大事にしたい。今年こそ、希望がつながる安らかな一年になりますように』と。「信用」「信頼」「安心」「安全」が暮らしの中で実感できる一年にしたいとの決意と願いを込めて…。

昨年の世相を表す漢字は「偽」…。相次ぐ食品偽装、消えた年金、政治活動費の偽りや防衛省消疑惑、歴史と伝統を誇る老舗での偽り、人材派遣会社の偽装請負など、さらには無責任な政権の放り出し、そして政治家の公約の偽りと、何を信じたらよいのか、わからなくなってしまった2007年。今年こそ「看板に偽りなし」の信頼と安心の社会を取り戻したいものです。

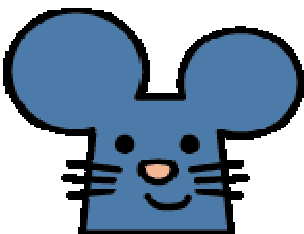
皆さんの温かいお力添えで、市議会議員2期目をスタートすることができました。課題山積の長野市政。初心忘れず、市民が主役のまちづくりをモットーに、暮らしに広がる格差を解消し、安心と安全を最優先するあったかい長野市政をめざし、頑張りぬく所存です。今年も皆さんの温かい叱咤激励をお願い申し上げます。



* 毎年12月12日(いい字一字で「漢字の日」とされる)に発表される「今年の漢字」、日本漢字能力検定協会が全国公募で決定しているものですが、1位は断トツで「偽」、2位以下10位まで「食」「嘘」「疑」「謝」「変」「政」「乱」「暑」「心」との漢字が並びます。情けなくなるような世相です…。

2008年の目標 ベスト10

1. 自ら「看板、言葉に偽りなし」を真摯に実践する
2. 市議2期目、市民の幸せを願い、参加と合意、市民が主役のまちづくりに全力投球する
3. 現場主義に徹し、声なき声を市政に反映、市政を語る集いを定期的で開催する
4. 格差をただし、命と暮らしのセーフティネットを地域から創る
5. 地域公共交通の活性化・再生にしっかりと取り組み、市民の足を守る
6. 医療難民、介護難民、年金難民をなくし安心の福祉社会を創る
7. 放課後、子どもの安心な居場所をつくる
8. 憲法9条は変えない、地域から平和力を構築する
9. 家族団らんを大切にする
10. 人生半世紀。メタボにならず、素敵な「中年」をめざす
(これは無理かなと思いつつ)



12月議会、補正予算案や指定管理者の指定議案を可決

改選後の本格的な議会となった12月議会は、総額8億4500万円余を追加する一般会計補正予算案をはじめ、市条例の改正議案や公の施設管理に導入している指定管理者の指定に関する議案など50の議案をすべて原案通り可決して閉会しました。

また、請願等に基づき、「衆議院小選挙区の区割りを見直し、長野市に合併した旧町村区域を長野県第1区に編入するよう求める意見書」や「医師不足を解消し、安心できる地域医療体制の確立を求める意見書」など7件を可決しました。

12月議会は、自治体財政の評価の指標の一つである「実質公債費比率」（借金の度合い）が危険水域の入口である18%を超えた中でいかに財政を健全化させるのか、受益者負担の見直しや指定管理者制度の検証、三輪保育園の民営化、都市内分権の具体化、素案としてまとめられた「放課後子どもプラン」の検証、家庭ごみ処理の有料化問題、後期高齢者医療制度の問題、地域福祉活動計画の策定と具体化、中山間地域の活性化などが論点となりました。

公の施設管理を民間に開放する指定管理者制度 地元企業の活用に課題残す

■「りんごの湯」指定管理、県外企業に

12月議会の論点の一つで、所属する経済文教委員会の議論の焦点となったのが、「豊野温泉りんごの湯」の指定管理者の県外企業への変更です。りんごの湯の指定管理者は、地元企業の「ジェイエイながのサービス」が行っていましたが、市は指定期間の満了を受けて、東京に本社を置く株式会社オーチャーとファンスペースの2社でつくる「りんごの郷」運営企業体」を新しい指定管理者に選定・変更したのです。地域とのつながりが強く、施設利用者も順調に伸びていた中で、なぜ変更する必要があったのか、地元でも驚きと落胆の声が広がりました。市は、事業提案で割引時間帯の延長（午後8時から10時までを400円から250円に割引していたものを午後6時からに拡大）や館内レストランを直営とし地元食材を活かした独自のメニュー提供、350万円余の経費削減などが決め手になったとしました。

■地域振興の観点から地元企業の活用 雇用の継続を求める

当該の県外企業の事業提案が優れているとはいえ、指定管理者が地元企業から県外企業に変わっていくことに大きな危惧を抱きます。何故なら、指定管理者への参入にあたり、地元企業のやる気をそいでしまう結果になりかねないからです。指定管理者としてのスキルとノウハウに優れる県外企業に、地元企業体はまだまだかなわない現実があります。市は「地元民間企業には勉強してもらうしかない」としますが、地元企業の育成・活

用という視点がなければ、地域振興につながりません。

私は、指定管理者の選定にあたり、地域振興に鑑み、指定管理者の実績や地元事業者の育成の観点を加味した選定基準を設け、地元民間事業者の活用を図ること、地元民間事業者に対し、指定管理者としてのノウハウ、スキルアップに向け、指導・育成を行うこと。指定管理者の変更にあたり従業員の皆さんの雇用の継続が図られるよう指導・監督することを強く求め、最終的に議案に賛成しました。

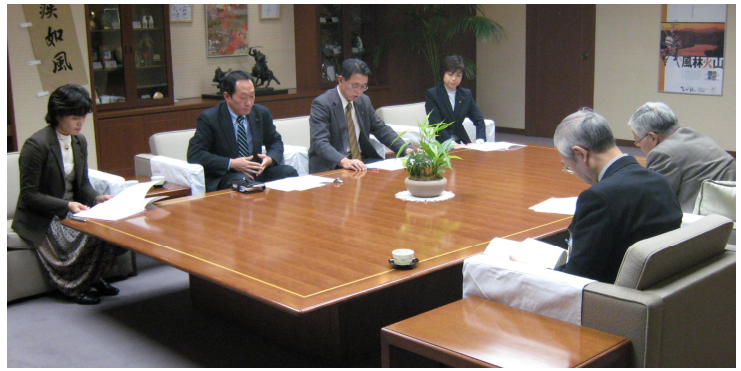
来年度には多くの施設で指定管理者の更新の時期を迎えます。地域・地場振興の観点から地元企業の活用をいかに図るか、課題が残ります。

■「市民監査」など指定管理者の管理 運営をチェックする仕組みが必要

指定管理者制度は、既に295の施設で導入されています。今のところ大方の施設では市民サービスが向上していると受け止められているものの、一部には管理が行き届かず問題となっている施設もあります。また、指定管理者の皆さんからは、経費削減について行政側の対応が非常に厳しいとの声も聞かえてきます。経費削減のしわ寄せが人件費の抑制、非正規雇用の常態化、社会保険・雇用保険等への未加入という状況を加速し、結果、市民サービスが低下するという事態を招かないよう、「市民による監査機関」など市民・利用者の視点からチェックする制度をつくらせていくことが求められていると考えます。

市長に 来年度予算編成で 重点施策を申し入れ

12月3日、市民ネットとして市長に対しH20年度予算要望を行いました。今回は無所属の丸山・寺沢両議員と共同で提出。さまざまな格差をなくし、市民が明るく豊かに安心して住み続けられる地域づくりをめざし、重点施策をまとめたもので、全部で107項目、うち新規事業など重点施策として33項目を要望しました。（詳細はホームページに掲載）



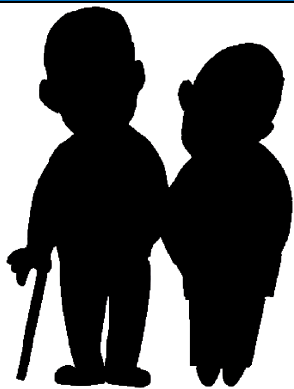
■高齢者福祉・子育て支援の充実、 環境を重点に

申し入れでは、市民まちづくりアンケートの結果等を踏まえ、特に高齢者福祉の拡充、子育て支援、環境保全・地球温暖化防止を重点にすること、受益者負担の見直しにあたっては、市民サービスを低下させることなく急激で過度な負担増とならないよう慎重に行うことなどを強く求めました。

■「概ね妥当な要望」と前向きな対応

市長は、「絶対に無理！という事業はなく、概ね妥当な要望。要望事項を踏まえ予算編成にあたりたい」とし、予定時間を大きくオーバーして、重点33項目一つ一つに、所感や施策としての見通しを述べました。概ね「前向きな対応を図る」との感触を得たものと思っています。市民の皆さんの声を踏まえ、要望事項の実現に向け、しっかり取り組みます。

後期高齢者医療制度…抜本的な見直しが必要



4月から75歳以上の高齢者を対象とする「後期高齢者医療制度」が始まります。県内の平均保険料は一人当たり年額65,017円（月額5,418円）にのぼり、年金から天引きされるというもの。子どもなどの扶

養家族として、これまで保険料負担がなかったお年寄りにも負担が生じることになります。病院での窓口負担は、これまでと同じで

原則1割（現役並み所得者は3割）。医療費の抑制を狙った制度改正ですが、高齢者に負担が重くのしかかり、病院が遠くなってしまうことが懸念されます。

12月議会には後期高齢者医療制度に関し3件の請願が提出されましたが、制度の廃止を求めるものは否決に（私は廃止には賛成しませんでした）、負担増の見直しを求めるものは残念ながら継続審査になってしまいました。

いつでも、誰でも、どこでも平等に安心の医療が受けられる制度となるよう、負担の抜本的な軽減をはじめとする見直しに取り組めます。

灯油代補助5,000円、市独自の生活支援策はじまる

◆原油高騰が暮らしを直撃する中、灯油高騰に対する長野市独自の支援制度が始まります。

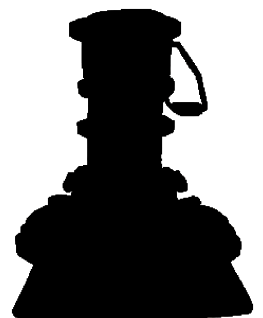
1世帯当たり5,000円、対象世帯は1万1000世帯、総額で5500万円の支援です。

◆対象世帯はH20年1月1日現在、長野市に住民票を持ち、世帯全員が市民税非課税世帯のうち、◎75歳以上の高齢者のみの世帯◎介護度4・5の重度

要介護者のいる世帯◎身体障害1級・2級、知的障害A1・A2、精神障害1級の人がある世帯◎特定疾病等難病患者のうち重症認定者のいる世帯◎18才未満の児童を養育している母子家庭または父子家庭の世帯◎生活保護を受給している世帯です。

◆1月21日から2月29日のまでの間に、市役所本庁厚生課または支所の窓口で申請します。

◆申請主義のため、該当する皆さんが申請しなければ支援金は交付されません。広報や全戸回覧等で周知されますが、忘れることなく申請されますように！。



児童館・児童センターの拡充につながる「放課後子どもプラン」へ

■「放課後子どもプラン」とは、厚生労働省の「放課後児童健全育成事業」（児童館・児童センター）と文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」（市内6地区で実施中）を一体的・連携させて、学校施設も利用して全ての児童に安全で健やかな居場所を確保しようとするもの。■市は長野市版のプラン素案を発表、2月には案としてまとめ、4月からモデル事業として具体化するとしています。パブリックコメントでは11人の個人、1団体からしか意見がなかったとのこと、市民や保護者の

皆さんに周知されていないことが浮き彫りに。■市の素案は児童センター等を新設しないことを前提に、学校施設を活用する校内施設と校外施設（児童センター）で居場所をつくる、指導員やボランティアのアドバイザーを配置する、利用料金制を導入する、小学校区単位の運営委員会と指定管理者が連携して事業を進めるというもの。ここでも受益者負担の考えが貫かれることに。学校の空き教室の状況は？また地域ごとに運営が異なることになり、子どもたちの居場所に機会均



等が保障されるのかという疑問も生じます。■子どもたちにとって「安心と憩いの場」になっている児童センターの役割を大切に、その役割を拡充する「放課後子どもプラン」となるよう、市民的な議論が必要です。

（写真は松ヶ丘児童センター）

ご支援ありがとうございました。地元安茂里の代表として頑張ります。

昨年9月の市議選では、地元安茂里の皆さんの力強い大きなご支援のおかげで、2期目の当選を果たすことができました。しかも、5,450票という予想を超えるご支持をいただき、3位で当選させていただきました。本当にありがとうございました。初当選以上にうれしく思う反面、皆さんのご期待に応える責任の重さに身が引き締まる想いで一杯です。改めて皆さんのご期待と自らの責任を心に刻み、2期目に臨んでまいります。選挙戦の中で皆さんに約束してきたこと、安心・安全を最優先させるあったかい市政、暮らしのセーフティネットの実現、もっと住みよい安茂里の実現に向けて全力を挙げる決意です。



市議会議員 布目裕喜雄



◆選挙後の市政報告会。12月2日に安茂里公民館、9日には小市公民館で「祝勝会」を兼ねて催しました。

編集後記 ◆12月20日に安茂里住民自治協議会で差出南にある食肉センター跡地の公園整備について市長に再陳情、実現にダッシュ◆突然のアルピコグループの会社再建問題…市内では川中島バスやアップルランドが再建対象に。何としても市民の足・地域公共交通と雇用を守るために、市長とも連携し全力傾注する課題に◆新年会や旗開きの毎日、暮らしをとりまく切実な声に決

意新たの日々、飲み過ぎ要注意！◆H18年度会計決算を認定する「決算特別委員会」が15日から、25日までの集中審議で。副委員長として審議に。また政務調査費の使途や議会運営など議会改革に関する検討委員会が再始動◆2月には委員会の行政視察、政策研修会に参加。3月議会は2月29日からの予定です◆インフルエンザ、ノロウイルスに要注意、ご自愛の程を。（布）